

# 生産性・品質向上



実施地域 アラフエラ

## 1. プロジェクト要請の背景

1987年9月にグアテマラを訪問した倉成外相（当時）は、中米和平と域内各国の発展・結束のために、我が国の協力による「中米人造り構想」を表明した。同構想をもとに、1989年度の無償資金協力でコスタ・リカに中米域内産業技術育成センター（CEFOF）が建設され、同センターでプロジェクト方式技術協力「中米域内産業技術域内計画」（1992年～1996年度）が実施されたが、プロジェクト期間中の活動としてはコスタ・リカ国内対象の研修が大半であり、中米域内への一層の普及が望まれていた。こうした背景から、コスタ・リカ政府は、中米地域7か国（後に8か国）の研修参加者に対し、生産性・品質向上技術の習得と、これを通じた中米域内中小企業の競争力向上に資することを目的とした第三国集団研修の実施を我が国に要請した。

## 2. プロジェクトの概要

### (1) 協力期間

1997年度～2001年度

### (2) 協力形態

第三国集団研修

### (3) 相手側実施機関

中米域内産業技術育成センター（CEFOF）

### (4) 協力の内容

#### 1) 上位目標

中米諸国（コスタ・リカ及び周辺6か国）の中小企業の競争力が向上する。

#### 2) プロジェクト目標

中米諸国からの研修参加者の生産性・品質向上分野の知識と技術を向上させる。

#### 3) 成果

a) コース終了後、研修参加者は企業内及び当該

地域の指導者として必要な以下の知識・技術を得る。

- ・生産管理（5S、（整理・整頓・清掃・清潔・躰）、原価低減、問題解決技法、スケジューリング、在庫管理など）
- ・品質管理（品質向上、品質管理手法、品質保証、検査の基本など）
- ・データ処理の活用法の紹介（希望者のみ）

b) CEFOF 運営体制が強化される。

### 4) 投入

#### 日本側

短期専門家 4名

ローカルコスト 0.31億円

#### コスタ・リカ側

カウンターパート 34名

ローカルコスト 0.12億円

### 5) 研修参加国

ベリーズ、コスタ・リカ、ドミニカ、エル・サルヴァドル、グアテマラ、ホンデュラス、ニカラグア、パナマ

## 3. 調査団構成

団長・総括：高橋 政行 JICA 中南米部中米・カリブ課長代理

評価調査：久保 真介（株）ニュージェック

## 4. 調査団派遣期間（調査実施時期）

2000年9月23日～2000年10月2日

## 5. 評価結果

### (1) 妥当性

中小企業の競争力向上は、中米域内諸国の経済発展の根幹をなすものと認識されており、また、生産

性・品質向上と競争力向上は緊密に連動している。また、研修には、平均して定員（毎年42名）の約2倍の応募（延べ293名）があったことなどから、研修内容は当該地域のニーズに応えるものであったと考えられる。研修参加者への質問票調査では、「研修は自国ニーズに合致しているか」との質問に、ほぼ全員が「合致する」と答えており、本プロジェクトには高い評価が与えられており、妥当性があったといえる。

## (2) 目標達成度

当初計画どおりに毎年42名が参加し、本協力期間中の4年間で計168名が研修を修了した。参加者への質問票調査では、うち45名から回答があったが（回答率26.8%）「研修を通じてどの程度、新しい知識を習得したか」との問いに、45名中40名が「完全に習得」「大体習得」「普通」と答え、これは全回答者数の89%に相当する。また、研修で習得した知識・技法・経験をどの程度現在の職場で活用しているかとの問いには、回答者45名のうち90%が「大いに活用している」あるいは「活用している」と回答している。これらのことから、研修参加者は研修で習得した知識や技法などを現在の職場で有効に活用しており、よって研修目標はほぼ達成されていると結論づけられる。

## (3) 効率性

人的資源管理などを講義した短期専門家は、CEFOFのカウンターパートと研修者に、新技術や知識を教授できたと報告している。しかし、講義は1科目当たり7時間と時間が少なく、スペイン語通訳を介して行われたため、理解度などを不安視する報告もある。この点に関してCEFOFは、次年度の研修内容改善に研修参加者の要望を反映するなど、研修の欠点を克服する努力を毎年行うなどして対応している。また、質問票調査で施設及び機材の不足や不都合を尋ねたところ、それらを指摘する回答は一切なかった。

## (4) インパクト

質問票調査によれば、回答者45名中8名を除く研修参加者が、帰国後も同一の職場に継続勤務している。これから、研修参加者が異なる業種に転職するなどの、プロジェクト目標にとってのマイナス面はほとんどないといえる。また、同調査では講義内容の習熟度、研修による従前の知識・技能の改良度や活用度を尋ねているが、回答者の80%が「極めて満足」あるいは「満足」と評価している。つまり、研修参加者は研修で習得した知識・技術を、継続的

に職場で活用しているということである。これらのことから、研修参加者は上位目標である中小企業の競争力向上などに、研修で得た知識や技術を役立てているといえる。

## (5) 自立発展性

CEFOFには、研修経験豊富な講師陣がおり、十分な資機材や施設がある。また、CEFOFは中米工業会議所連盟を通じて、中米各国と緊密なネットワークを持ち、米州開発銀行などの資金提供を受けての研修も開催しており、本プロジェクトによる研修以外にも年平均約90回のセミナー開催実績をもつ。さらに、上部機関である経済省などとの連携もとれている。こうしたことから、今後も関係機関から適切な財源的支援が確保されれば、研修実施による便益は持続されるものと思われ、中米・カリブ諸国における生産性向上・品質管理センターとしての発展が期待される。

## 6. 教訓・提言

### (1) 提言

CEFOFが、中米・カリブ諸国の中小企業の生産性向上を図り、人材開発を普及させるだけでなく、中米における生産性向上の中心としての役目を強化していくことが望ましい。

## 7. フォローアップ状況

CEFOFの技術の向上及びサービス内容の拡充のため、2006年1月まで5年間の生産性向上プロジェクトを実施中である。